

好意的性差別態度は人々を幸せにするか

○森永康子・福留広大
(広島大学大学院教育学研究科)

Napie et al. (2010)は、世界価値観調査が行われた 33 か国のデータを分析し、男女ともに女性に対する好意的性差別態度(Benevolent sexism: BS)が強いほど、人生満足度が高いことを見出している。これは、BS がシステム正当化(Jost & Banaji, 1994)の機能を持っているためだと考えられている(Napie et al., 2010)。BS とは、女性を保護し、男性にはない女性の特性の賞賛するといった態度(Glick & Fiske, 1996)であり、こうした態度が現状の性別役割分担などのジェンダー・システム(GS)を肯定する態度に結びつくと考えられる。本研究では、BS が GS を正当化することで人生満足度を高めているのかという点について検討する。

方法

参加者 成人男女 660 人(女性 341 人、20~59 歳を 10 歳ごとに同人数になるように割り付けた)。ネット調査により実施。

測度 (1) BS 8 項目(森永他, 2018; $\alpha=.817$; 項目例「女性には家庭責任があるので、あまり責任の重い仕事を任せるのは気の毒だ」)。 (2) GS 正当化 8 項目(Jost & Kay, 2005; 分析には 4 項目のみ使用 $\alpha=.685$; 項目例「この社会は、男性は男性にふさわしいもの、女性は女性にふさわしいものが得られるようにできている」)。 (3) 人生満足度 3 項目(Diener, 1984; $\alpha=.923$; 項目例「ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い」)で測定。以上は 6 件法。その他に婚姻状態(1:独身, 2:既婚)と個人の年収(5 件法)などを尋ねた。

結果と考察

各測度の平均値及び性差の検定結果を表 1 に示した。BS は男性の方が高く、過去の研究と一致する結果であった(e.g., 森永他, 2018)。人生満足

	男性		女性		性差	
	n=319	(0.79)	n=341	(0.75)	p	d
BS	3.36	(0.79)	3.21	(0.75)	.014	0.192
GS正当化	3.42	(0.75)	3.35	(0.77)	.240	0.091
人生満足度	2.80	(1.09)	3.01	(1.17)	.016	0.187

BS:好意的性差別態度, GS正当化:ジェンダー・システム正当化

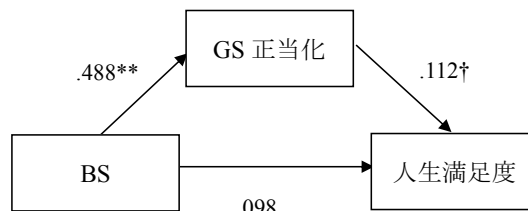


図1 男性の分析結果(飽和モデル)

統制変数の影響(有意なもののみ)
年齢→GS 正当化 .131*,
婚姻→BS .153*, 婚姻→人生満足度 .153*,
収入→人生満足度 .222**

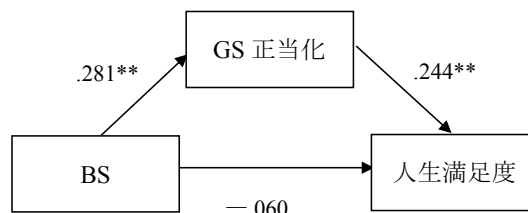


図2 女性の分析結果(飽和モデル)

統制変数の影響(有意なもののみ)
婚姻→人生満足度 .329**,
収入→人生満足度 .203**

度は女性の方が高かったが、過去の研究では性差の方向は一貫していないことが報告されている(see Batz & Tay, 2017)。

BS と人生満足度の相関を算出したところ、男性では $r = .197, p < .001$, 女性では $r = -.006, p = .911$ であった。男性では Napie et al. (2010)と同様に、BS が高い方が人生満足度も高かったが、女性ではその関係が見られなかった。

次に、図 1, 2 のようなモデルを作成し、共分散構造分析により検討した。なお、主観的幸福感に関する過去の研究から、年齢、婚姻状態、収入が人生満足度に影響を及ぼすことが報告されている(中里, 2017 参照)ため、これらを統制変数として投入した。その結果、男性の場合、GS 正当化から人生満足度へのパスは有意傾向であったが、男女ともに、BS が GS 正当化を経て、人生満足度に影響することが示された。しかし、BS そのものは人生満足度と関連がなかった。このことから、BS が GS を正当化する役割を果たすこと、そのことで幸福感が高くなることが示唆されたと言える。(科研費 18K03007)